

食品安全委員会

リスクコミュニケーションのあり方に関する勉強会 第4回

夏目智子 2014.9.24

■リスクコミュニケーションの目標をどこにおくのか。

食品安全委員会のリスクコミュニケーションは、言うまでもなく食の安全に関するリスクコミュニケーションです。以下は平成16年7月の「食の安全に関するリスクコミュニケーションの現状と課題」より

リスクコミュニケーションの目標

- (1) 関係者はそれぞれ食品の安全性に関する情報を「迅速に、必要な内容をすべて、わかりやすく、正確に」共有するとともに、各プロセスの透明性を確保する。この場合、「逃げるな、隠すな、嘘つくな」を原則とすることが重要。
- (2) 食品のリスクとその提言措置についてすべての関係者の間で話し合っけて共通理解を得るように努力し、それぞれの責務、役割に応じて参加し、貢献する。

この目標そのものは、今も変わらないのではないか。

■リスクコミュニケーションの内容

- (1) リスク評価とリスク管理を含めた食の安全全体についてが望ましいのではないか。
- (2) 第2回の姫田事務局長の発言より

食品安全ということになると、ほとんどみんな表示の話しかわかっていなくて、基本的な食品安全そのもののことについて、ほとんどの方が関心がなくて、最終的に食べ物の表示の話が食品安全だと思っている人たちが8割以上はいるのではないかと思っています。そういう意味では、まだ全然その科学的なこととかは、リスクコミュニケーションの前に十分に情報提供ができていないのではないかと思っています。

- (3) 情報の質と量をアップ

情報を提供したら終わりではなく、そのリスクに関係する人たちで情報をやりとりしながら、情報の価値を高めていくこと、足りない情報や新たな情報を付加していくような内容が求められるのではないか。

■リスクコミュニケーションの方法

- (1) 関係機関の縦割りを廃していただきたい。
- (2) 情報公開の更なる促進とメディアとの協力関係の促進を図っていただきたい。
- (3) 情報発信・交換サイトについて

SNS など、情報は瞬時に不特定多数に拡散しますので、積極的な情報発信とリスク

コミュニケーションを通じて、正しくない情報を制することも必要ではないでしょうか。

- (4) コミュニケーションの課題は「聞き方、話し方」にあります。専門家養成の時にも留意したい点です。

#### ■安全と安心

- ・安全はある程度、客観的な尺度で測ることができますが、安心は私たち一人ひとりの主観です。
- ・目に見えないもの、専門知識がない人には理解しにくいもの、発生のしかたがランダムに見えるものに対して感じる不安は、個人の知識、経験、性格などによって大きく異なるものです。
- ・個人が感じている不安を理屈や「安心して」という言葉で消し去ることは非常に難しいと思います。
- ・あいまいな「安心」を喧伝するよりも、きちんと目に見える形で「安全」を確立し、伝えていくほうが効果的で、ここにリスクコミュニケーションの意義があると思います。